

青牛式トレードマスター講座

青牛の鉄板パターン

トレンド転換と陰陽転化の立ち回り

私のトレードスタイルにおいて、いわゆる鉄板パターンとして用いている手法がこの2つ

・トレンド転換 = エリオット波動第3波

・いんようてんか陰陽転化 = テンドの終焉を捉える

であり、コンテンツ「青牛の鉄板パターン」でも触れていますが、このコンテンツでは、この2つの手法を用いて実戦で「どのように立ち回るのか」ということを具体的に解説していきます。

※解説の中で、エリオット波動を用いていますが、一般に広く普及していることが理解しやすさに貢献するためであり、私がエリオット波動理論を軸にトレードしているわけでは一切ありません。

青牛式トレードマスター講座

第1 トレンド転換（エリオット波動第3波）

エリオット波動理論の通称「第3波」であり、一般的には、最も分かりやすく勝ちやすいといわれているセットアップ。

1 メリット

チャートの値動きから利益を引き出すにあたって、その値動きの源泉となっている要素は「モメンタム」であると私は考えているわけですが、要は「そのセットアップを多くの人認識（狙っている）していることに比例して、そのセットアップが成立する確度は高くなり、また、巡行する値幅も大きくなる」ということ。

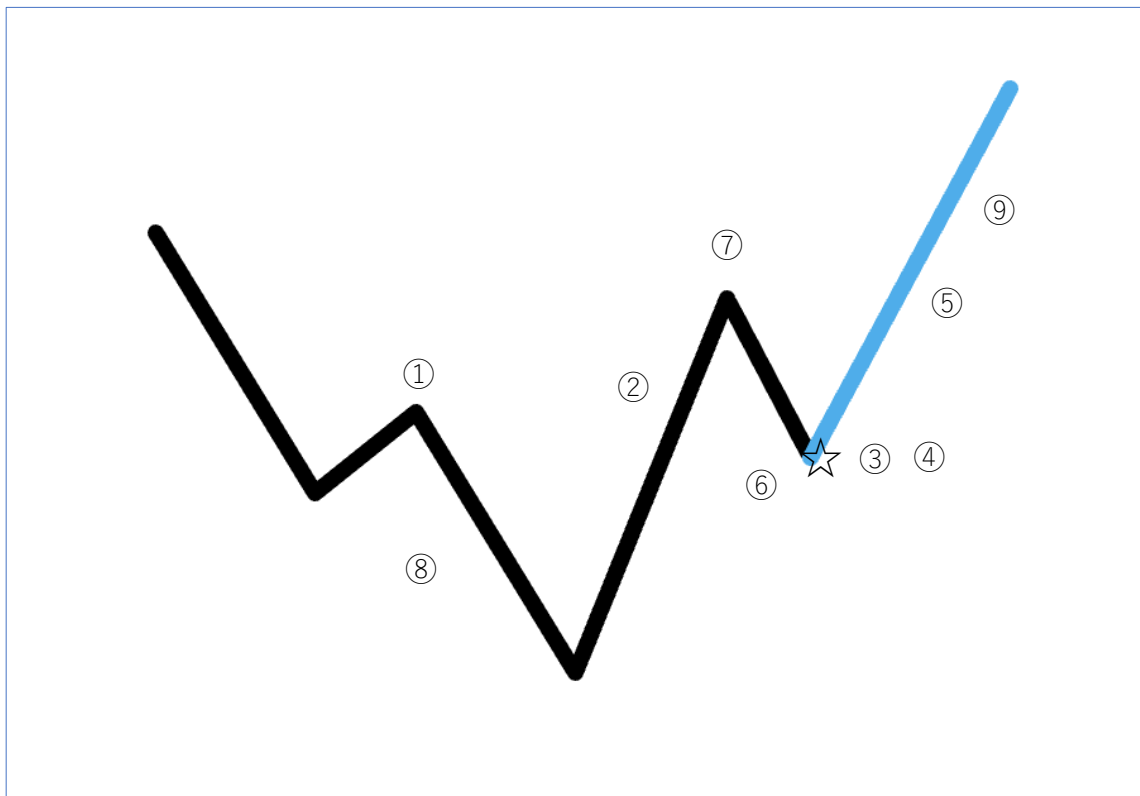
そして、「青牛式トレードバイブル」に記載しているように、相場参加者の世界共通ルールは「**ダウ理論**」ですよね。

サッカーで手を使ってはいけない、野球でボールを蹴ってはいけない、など言葉が通じない異国の人であっても、「**全世界共通のルール**」があることによって「その場」が成立するわけで、例え相場の世界であってもその原理

青牛式トレードマスター講座

原則は同様に機能し、現にダウ理論が根拠となる理由はそこにあると考えることが自然ではないでしょうか。

このトレンド転換というセットアップの強度が高い最大の理由は、「多くのモメンタムが交差するから」と私は考えています。



- ① 直近 Lower-High で売りの損切り = 買い注文
- ② 第 1 波形成中の直近 Lower-High での戻り売りを狙った売りの損切り
- ③ 第 3 波狙いの新規買い注文

青牛式トレードマスター講座

- ④ 第1波からの買い増し
- ⑤ 第1波高値ブレイクの買い注文
- ⑥ 下位足 DTRD ブレイク狙いの売りの損切り
- ⑦ 第1波高値付近での売り増しの損切り
- ⑧ 第1波発生までの DTRD の売り注文の損切り
- ⑨ 第3波直近高値更新への飛び乗り

などなど、上図の☆部分を起点に多くのモメンタムが絡み合うことによって、複合的に起こる「圧倒的な買い注文」となって上昇していきます。

2 デメリット

- ・陰陽転化と比較した場合、ストップ設定ポイントが深くなる。
- ・共通認識性が高いセットアップのため、待機するレートまで落ちてこずに巡行し機会損失となるリスクがある。

3 資金管理

共通認識性が高い＝最低でも直近 Higher-High までは再度行く可能性が極めて高いということであり、エントリータイミングが多少ズレたとしても、

セットアップの確度の高さを追い風に利益にすることは十分可能なため、限界運動量と時間軸を考慮すれば、陰陽転化と比較してもルーズな立ち回りが可能。

4 エントリー

資金が30万円の場合、撤退ポイントを決めるという判断基準ではなく、「この時間帯で、この値幅の消化であれば、ここまでは落ちてこない」という見極めをもとにエントリーしていきます。

つまりこれが、私がライブで何度も言ってきた、「負ける気が全くしない」という強気の姿勢になるわけです。

5 損切り

・上位足背景を考慮するのは当然として、基本的な考え方としては、「直近 Lower-Low」が最終防衛ラインになるわけですが、そこまでは「どれだけ逆行しても耐える義務がある」ということであり、どれだけ含み損を抱えたとしても最終防衛ライン手前で反転して巡行すれば、合理的な勝ちと言える。

・直近 Lower-Low までのストップ幅と資金量を考慮した上で買い下がり、戦略的なポジション形成で優位に立ち回りましょう。

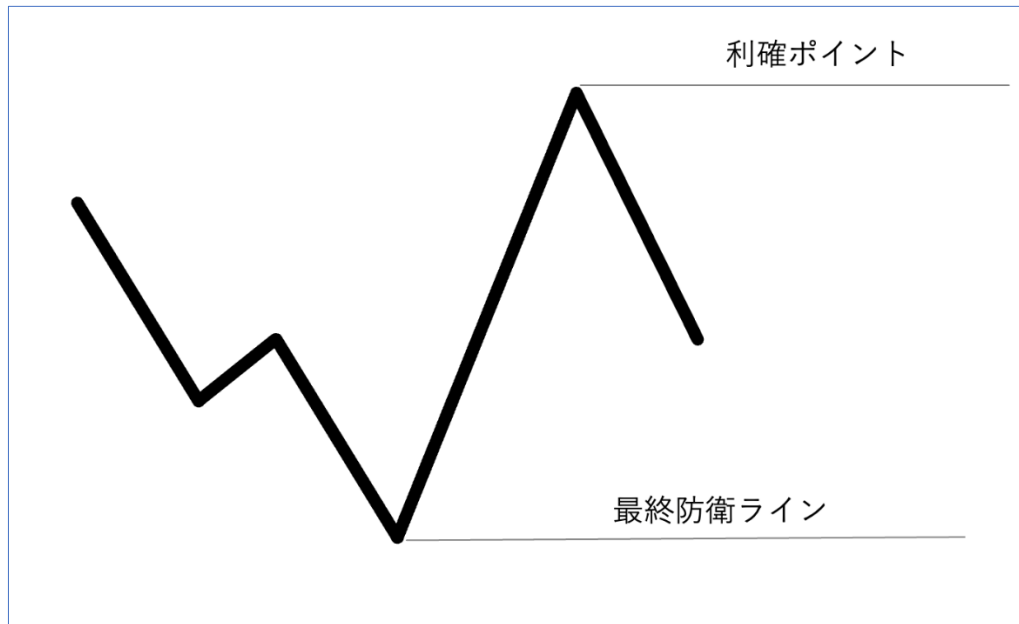
・そもそもこのトレンド転換自体のセットアップの確度を根拠とする背景から、陰陽転化のように細かな損切りをするのではなく、積極的に買い下がり
「時間をかけてポジションを形成」していく戦略をとります。

6 利確

「どこまで伸ばせるのか」という判断は、上位足の環境条件に尽きます。

そして、「第3波が最も大きな波となる」のがセオリーですが、これも上位足の環境条件に完全に左右されると考えており、単一時間足だけではなく上位足の状況を緻密に見極めた上で、しっかりと利益をものにしていきたいと思います。

つまり、上位足の環境条件に関わらず、基本的には「直近 Higher-High」
が最も手堅い利確ポイントであり、ピラミッティングをしている場合には、分割決済によって少なくともそこで2nd ポジション以降を手仕舞うべき。1st ポジションを決済するのかの判断は、上位足の環境条件によって見極めるという戦略がいいでしょう。



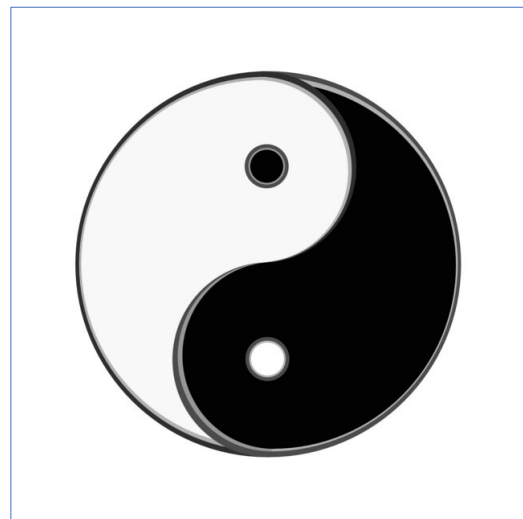
利確と損切りの単一時間足での基本的な考え方

鋭い方であればこのイラストを見た時点で、「おいおい、青牛さんはもっと利確ポイント上やん」と思ったかもしれませんが、それを可能にするためにマルチタイムフレーム分析を行なっているということは、これ以上ここで説明する必要はないでしょう。

第2 陰陽転化（トレンドの終焉を捉える）

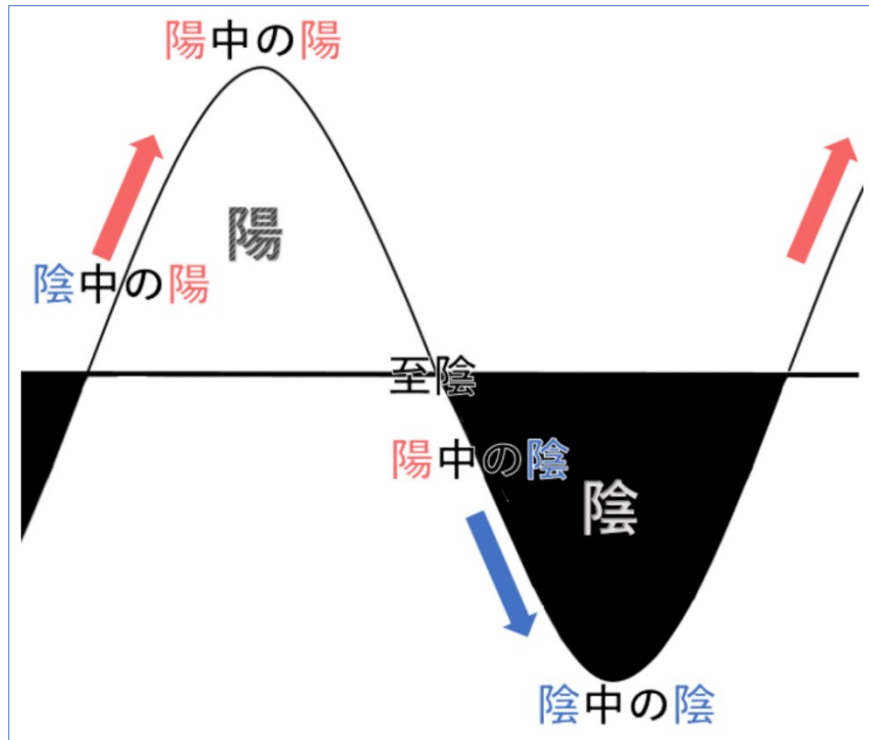
エリオット波動理論の第1波であり、「天底は狙うな」という一般常識に対し、大きな値動きが発生する直前の大底（先端）を狙うそれとは完全に逆行する手法。

これは陰陽学を表すマークですが、一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。



この手法のことを、今回新たに「^{いんようてんか}陰陽転化」という言葉で表現していますが、以前はこの概念を知らず、ある時にこの概念を調べてみると、まさに「トレンドの終焉を捉える」という行為をズバリ言い表している言葉だと腹落したことをはっきりと覚えています。それ以来、このトレンドの終焉を捉える手法を「陰陽転化」と表現するようになりました。

そしてこの概念を別の角度から観察すると、次のようになっています。



〈解説〉（ネットから引用）

陰陽転化は質的变化を現している。陰陽転化にはある一定の条件があり、片方が最高度に達したときに他方に転化する傾向があります。

これを「陽極まれば陰となる。陰極まれば陽となる。」といい、あらゆる自然界の変化、人体の生理・病理にも応用でき、「あらゆる事物の陰陽は、ある

青牛式トレードマスター講座

一定の程度・段階に達すると、陰は陽に、陽は陰に転じること」ということも出来ます。

つまり、光はどこまでも光として明るいわけでもないし、陰はどこまでも陰として暗いわけではない。

この2つの関係は、光と陰という相反する要素でありながら、「互いを固有の存在たらしめるために、それぞれが引き立て合いながら存在している」のだと私は捉えています。

「この瞬間」の時間という概念での意味づけが朝であるためには、夜の存在が必要であり、その逆も然りなのです。

そして、陰が深くなるほど必然的に光が現れるのが近いということも意味しているわけで、相場の世界で言うところの「下落が続けば続くほど、反転し上昇する確率が高まっていく」ということ。

青牛式トレードマスター講座

The darkest hour is just before the dawn.

夜明け前が一番暗い（明けない夜はない）

これは自然界のことではなく、人生における転機を現す言葉として有名ですが、何が言いたいかというと陰陽転化という概念は、この世界の原理原則であるということ。

つまり、一見どこまでも下落していきそうに見える局面というのは、「最も合理的なロングの場面になり得る」と私は考えています。

下落中に買う際に実感する恐怖とは裏腹に、潜在的なリワードは比較にならないほどに優れているセットアップだということを理解し、実戦レベルで使いこなすことができるようになれば、チャートの見方そのものが進化している自分に気づくでしょう。

青牛式トレードマスター講座

1 陰陽転化の具体的事例

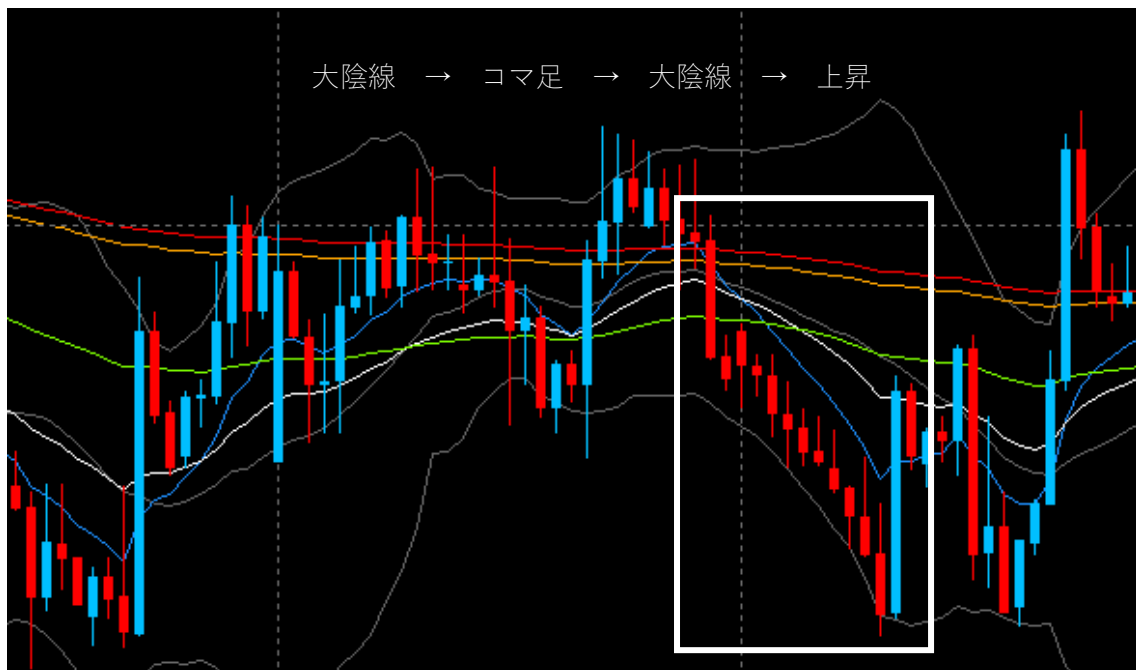
一つの大切な考え方として、そもそも論として相場参加者の大多数が「この下落はどこまで続くのか」という恐怖を感じていることが重要です。

そして、チャート上で陰陽転化が起こっていると視覚的に認識するポイントは、

- ① 連続する陰線
- ② 大陰線 → コマ足（厳密なコマ足ではない） → 大陰線
- ③ 試しに来るであろう安値があること
- ④ ③がない場合は、優位性が高いフィボナッチ数列があること(138.2 – 161.8 - 261.8)



青牛式トレードマスター講座



2 陰陽転化での基本的な立ち回り

まず大前提として理解しておかなければいけない点は、「この下落がどこまで下がり続けるのかは誰にも分からない」ということ。

つまり、資金の限りを尽くした単純な無限ナンピンとは全く異なり、細かいロスカットも入れながら戦略的にポジションを形成していく必要があります。

そして、基本的なエントリーの考え方として、「ここで下げ止まる」という仮説を持ってエントリーするわけですから、必然的にストップ幅は狭くなりますし、下落が続伸するようなら当然そのストップでの損切りを厳守しなければなりません。

また、このエントリーを週足レベルのサポートライン割れで実行する場合、割安レートまで貫通した場合には、「そこにサポートラインが存在しないのでは」ということ自体が、逆説的に捉えた時に非常に大きな優位性になるのです。

青牛式トレードマスター講座

つまり、**まだ誰もサポートされるか分からない・確証がないレートで買う戦略**であり、これがいわゆる「バンドワゴンの先頭にいる」ということ。

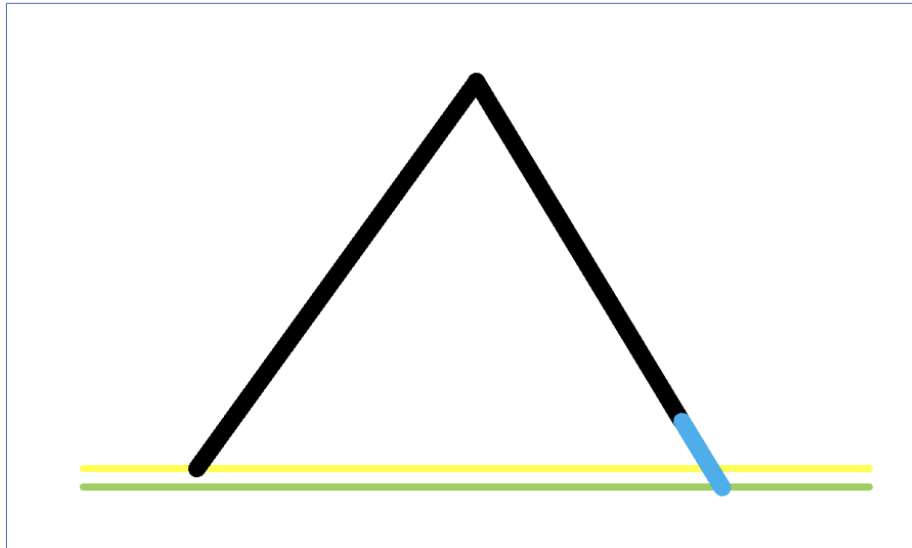
※H1 スケールの陰陽転化の場合は、比較的、既存の共通認識生が高いサポートラインを判断しやすい。

また、私がエントリー直後から上昇に飛び乗るかのように続け様に増し玉していく TJ を見たことがあるかと思いますが、これは陰陽転化の概念に基づいて、陰から陽に転換していく時間の優位性に乗じたエントリーであるということを感じてもらえるかと思います。

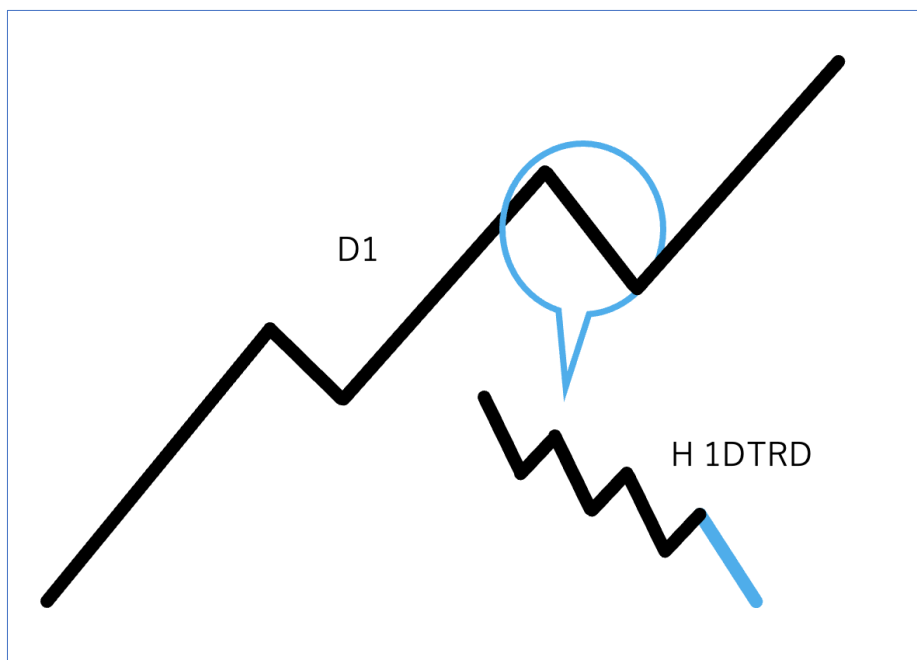


3 陰陽転化が機能する場面

- ・ サイクルクローズ A のボトム形成の DTRD

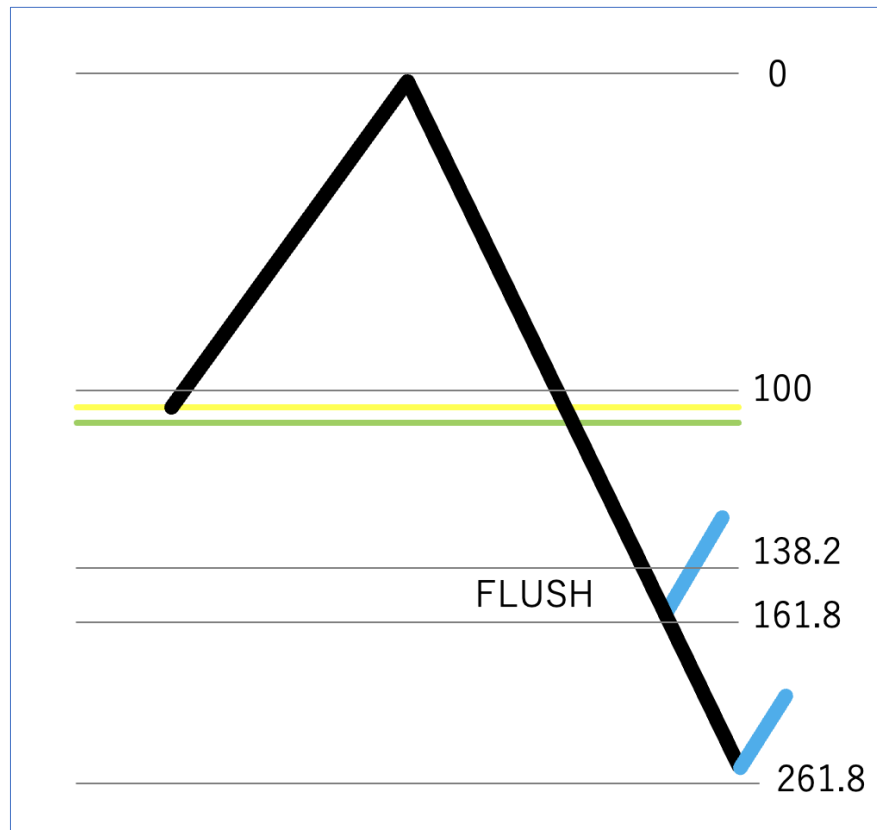


- ・ D1 レベルの押し目形成 = H1 での DTRD の終焉



青牛式トレードマスター講座

- ・ サイクルクローズ A のボトムからの FLUSH or 261.8



4 陰陽転化のメリット

- ・ 最大のメリットは合理的かつ圧倒的な RRR の実現
- ・ リスクを極限まで絞り込むことを可能にするエントリー

5 デメリット

- ・ 細かな損切りによる資金の減少
- ・ 反転ポイントの見極めの難易度が高い

6 資金管理

陰陽転化を捉えるセットアップに投入できる資金量が 50 万円の場合、私の経験則としては、その内 20 万円は「買い下がる途中で損切りにあうコスト」として考えています。

理想としては、1 発目のエントリーから大底を捉えることができればいいのですが、なかなかそうもいかないのが相場というもの。

ただし、このコストと本玉分という棲み分けを事前にしておくことで、細かな損切りにあってもメンタルへの負荷を抑えることが可能になります。

20 万円のコスト分を完全に消化してしまった時はどうするのか？という点は、個々の性格、総資金量、セットアップへの確度などによって当然変わってきますから、自分の場合はどうするのか？ということは、経験を重ねる中で明確な答えを導き出していきましょう。

7 エントリー

陰陽転化におけるエントリー技術の基本的な考え方や手法は、コンテンツ「エントリー精度と分割エントリーの調和」の中で買い下がりについて説明している部分を参考にしてください。

エントリーの際に最も意識する点は、「時間帯とローソク足形成過程」

・ 時間帯

陰陽転化の最後の陰線は大陰線になる傾向があるため、必然的にボラティリティが大きい時間帯である必要があります。

・ ローソク足形成過程

「ローソク足の読み方 ver.2」でも解説していますが、共通認識性が高いSPL に対して、大陰線確定の位置が「自然な位置にあるか」ということが重要になります。

陰陽転化初動のローソク足は、大陰線の坊主が確定してからの上昇なのか、大陰線後に陽線のハンマーを作り上昇するのか、ということを見極めながらエントリータイミングを図っていきます。

・ポジション形成の考え方

陰陽転化は、どこで下げ止まるかという確定要素がない中でエントリーしていくわけですから、結果的に無限ナンピンになるリスクを回避するために、分割エントリーのように下に向かって段階的にポジションを増やしていくということは行いません。

8 損切り

陰陽転化の初動を捉えるためには、適切な損切りは命。

むしろ、適切な損切りができないのであれば、この手法を使うべきではありません。なぜなら、冒頭でも書いたように「この下落はどこまで続くのかは誰にも分からない」から。

細かな損切りを適切なタイミングで行いながらポジションを作っていくため、ストップの位置は、必然的に直近安値ということになります。

指値でも逆指値でも構いませんが、いずれにしても直近安値で損切るということを徹底しましょう。

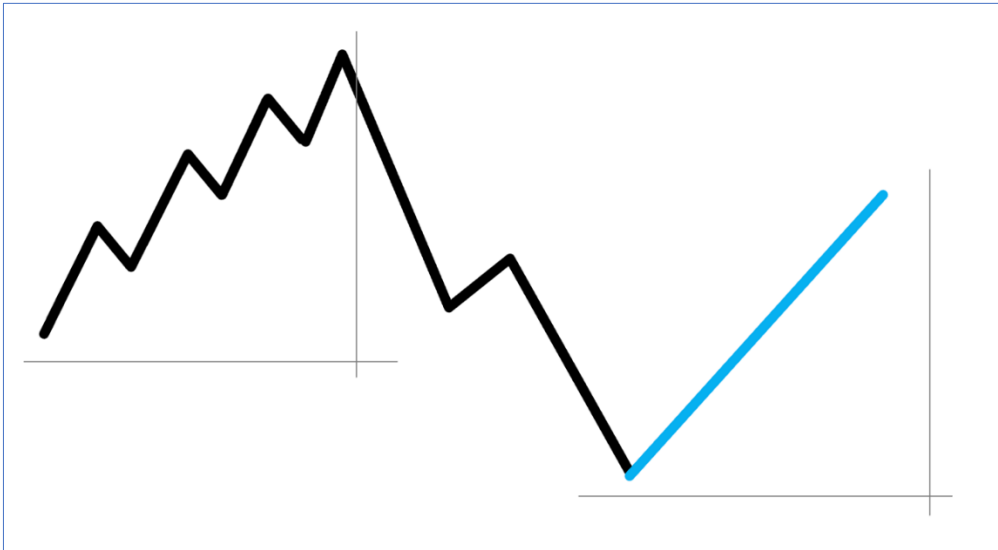
9 利確

一概に一つの答えを示すことはできませんが、私は次のテクニカルバリアを目安に利確しています。

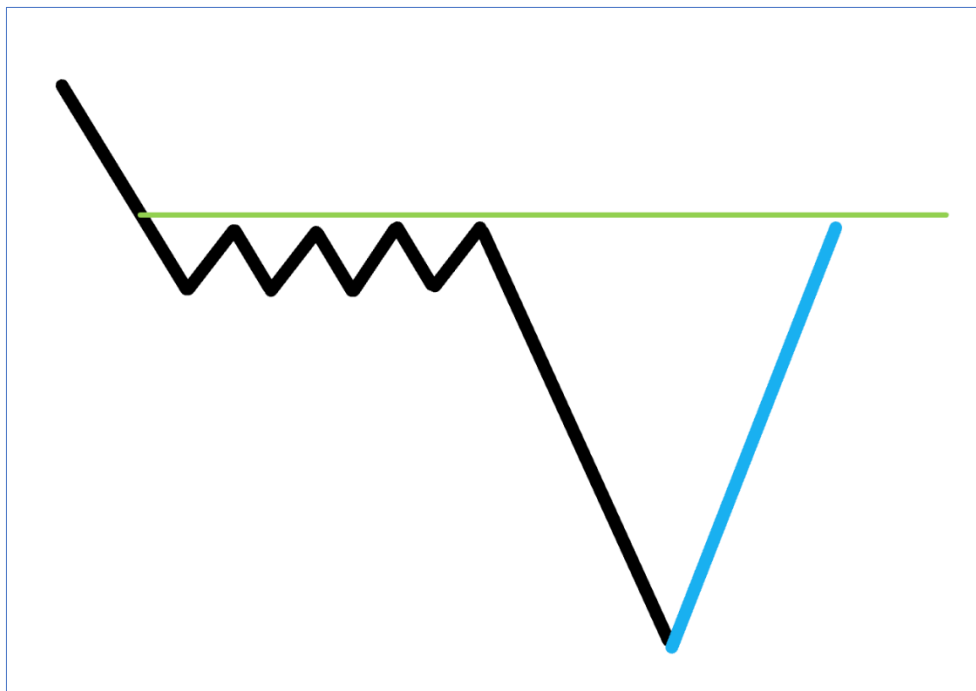
・Vのサイクルクローズ



- ・ 直近の上昇 1 波のサイズを消化

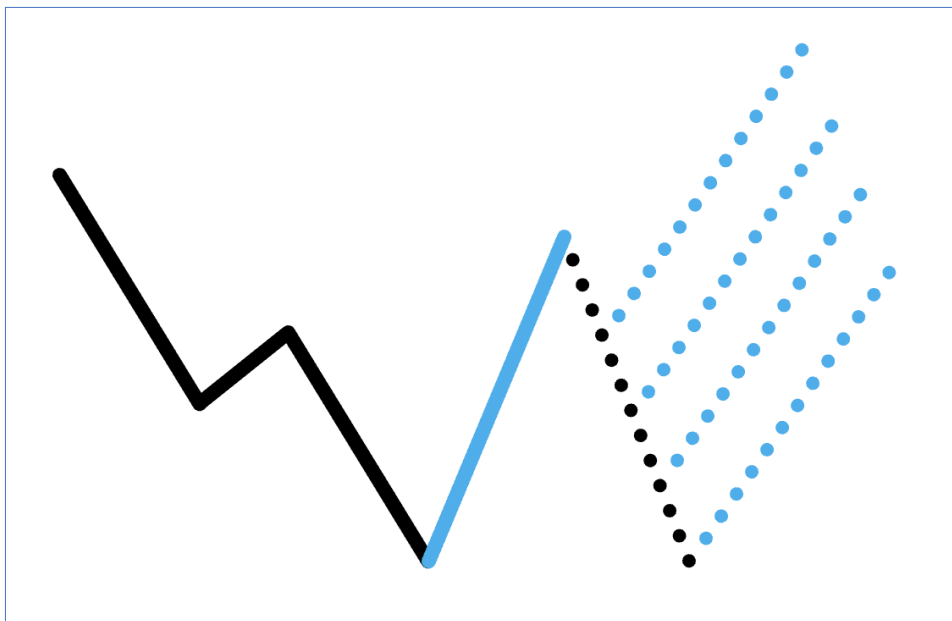


- ・ 共通認識性が高い RSL



また、第3波エントリーまでポジション保有してもいいのですが、私の経験則としては、第1波形成が完了する時点で全ポジション利確した方が、時間対効果、資金の回転効率、心理的負荷などの観点からも合理的だと考えています。

なので、陰陽転化で第1波を抜き取り、その利益をその後の第3波・トレンド転換で投入するという戦略の方が優位性が高いでしょう。



どこまで調整で下落してくるか分からない以上、第1波の形成が完了したであろうポイントで手堅く利確し、その利益を担保に第3波を新たに捉えにいく方が総体的に最も合理的な戦略ですが、通貨ペアの特性を考慮した戦略として

は、USDJPY のように取引量が多くトレンドが発生しづらいが、一度発生すれば継続性が強い通貨ペアは利確せずに保有し、EURGBP のように取引量が少なくトレンドの継続性ではなくボラティリティによる上下動の優位性が強い通貨ペアは手堅く利確という考え方も有効です。

いかがだったでしょうか。

コンテンツ「青牛の鉄板パターン」で示してはいましたが、あれから陰陽転化の概念を知り、自分の中で手法に対する理解が大きく昇華したため、今回のコンテンツを作る運びとなりました。

相場の世界で戦う自分自身の武器を取り扱う上で最も大切なことは、「手法」という小手先の言葉遊びではなく、その根底を支える「考え方」を理解すること。

青牛式トレードマスター講座

何事もそのやり方を覚えるのではなく「考え方を理解する」ことで、汎用性が高く応用が効く技術へと昇華させることを可能とします。

どこの誰かが作ったツールに永続的な優位性は存在せず、私達が身につけるべきは、**未来永劫にわたって通用する磨き抜かれた裁量トレード技術。**

そして、あなたがその技術を身につけるために、この講座は厳然と存在している。

あをうし

